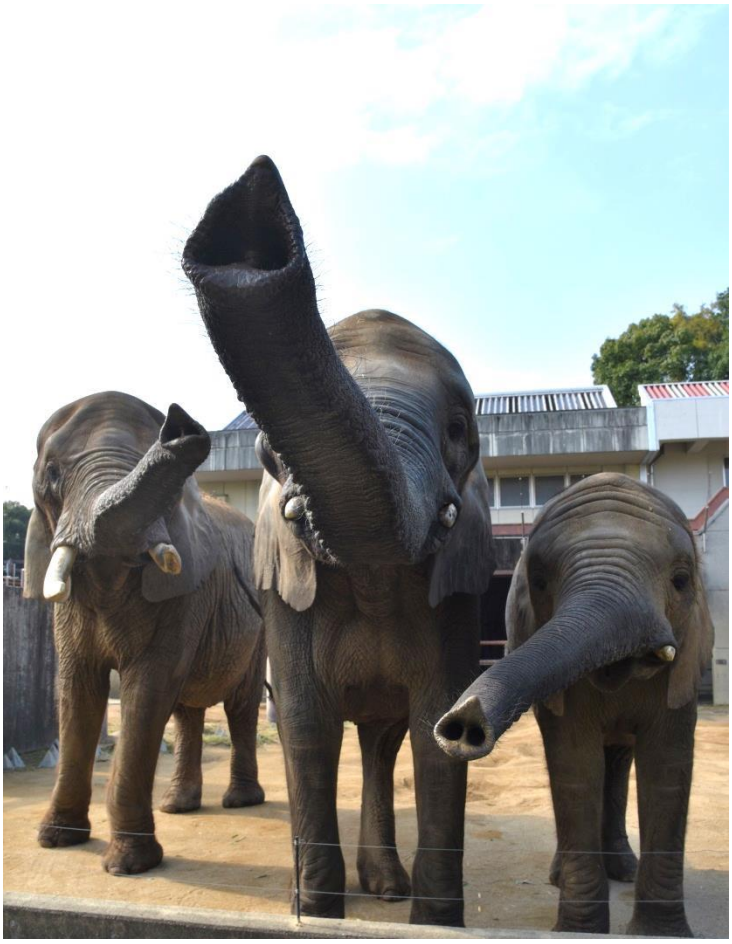
とべ動物園 2023
飼育係の研究活動報告会



2023 年 2 月 26 日（日）　参加無料　定員 60 名

とべ動物園ふれあいセンター2F　13：30～14：30　（開場 13：15）

「ライオンにおける 10 年間の群れづくりについて」

清水　和真

「アフリカゾウのハズバンダリートレーニングについて」

濱田　純基

※動物園への入園料は必要です。
※次回入園料が無料になる特別入園券をプレゼントいたします。

問い合わせ　公益財団法人　愛媛県動物園協会（愛媛県立とべ動物園）
〒791-2191 愛媛県伊予郡砥部町上原町 240
電話：089-962-6000　ファックス：089-962-6194　e－m a i l　info@tobezoo.com

ライオンにおける 10 年間の群れづくりについて

清水　和真

とべ動物園では開園以来、ライオンの飼育展示を続けているが、当初はほとんど単独展示であった。2011 年にガラス張りの 2 階建て室内観覧施設「ガオ☆パーク」が完成したことに伴い、展示効果を高め、ライオン本来の生態に近い母系群れ（プライド）で暮らす姿を見ていただくために2013年から約10年間にわたって様々な組み合わせでの群れ展示に取り組んできた。

2013 年に飼育していたオス 3 頭、メス 4 頭のうち、相性や年齢を考慮しながらお見合いと同居を試みた結果、メス「リリー（6 歳)」とオス「しま太郎（10 歳)」の組み合わせで繁殖を進め、出産後はリリーの両親にあたるメス「モナ（10 歳)」とオス「なみ次郎（10 歳)」との同居を目指すこととした。「リリー」が出産したのは 2015 年 2 月 12 日で、子どもはオス 1 頭、メス 3 頭の計 4 頭であった。出産直後は順調に子育てしているように見えたが、出産当日にオスの元気がなくなったため、「リリー」を別室に移して様子を見たところ、メス 1 頭の死亡及びオスの低体温症が確認された。オスは人工哺育に移行したが、メス 2 頭は再び母親のもとに戻し、この 2 頭は自然哺育で無事に育っている。生後 134 日齢から親子 3 頭と「モナ」「なみ次郎」とのお見合いを開始し、2015 年 10 月 26 日（生後 256 日齢）には同居を開始した。その後、大きなトラブルもなく放飼場で 5 頭を同居展示することに成功した。新しいオスの導入、メスの搬出などを経て、現在に至るまでの新しい血統での繁殖、群れづくりについても報告する。

アフリカゾウのハズバンダリートレーニングについて

濱田　純基

動物園でゾウを飼育する方法は 3 つに分けられる。ゾウと人が同じ空間にいる状態で調教や体のケア、清掃を行う「直接飼育」と、ゾウと同じ空間に入ることはなくゾウに触れることもしない「間接飼育」、同じ空間に入ることはしないが、檻越しでコミュニケーションを取り、体のケアを行う「準間接飼育」である。とべ動物園では 2019 年 3 月より、直接飼育から準間接飼育へ移行し、飼育方法を大きく見直した。飼育下のゾウは肢や牙の治療やケアを日常的に行う必要があるが、4ｔにもなるゾウを力ずくで押さえて治療することは不可能であり、治療の度に麻酔をかけることも大きなリスクを伴ってしまう。そこで、ゾウ自らが健康管理に必要な動作ができるようにするハズバンダリートレーニングが必須となる。まず、担当者の安全を確保した上で檻越しでトレーニングができるように寝室の一部を PC ウォールに改修した。担当者とゾウの関係性も見直し、ターゲットバーを用いて、してほしい行動をした直後に褒美を与える正の強化で体のケアに必要な行動を強化していった。現在では、蹄の削蹄、肢の洗浄とケア、耳からの採血、牙のケア、尻尾と口腔チェックが実施可能となっている。直接飼育時に比べ、担当者の危険性は少なくなり、特定の担当者に依存することなくゾウの健康管理ができるようになっている。また、トレーニングに参加するかどうかはゾウが選択することができ、動物福祉も向上していると考える。